

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

総合政策研究科	
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高次連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部4学科体制と連動し、総合政策という本研究科の教育目標を実現するため、大学院の授業科目体系の再編成を2010年度中に検討し、2011年度より新しいカリキュラムへ移行する。	→学部4学科と連動した大学院授業科目の再編成・再体系化の有無。	A	A			
2. 上記1で掲げた目標の中で、大学院の授業科目体系に、英語修了コース、教職科目、EU連携コース科目を適宜、配置する。	→英語修了コース、教職科目、EU連携コース科目の再編・配置の有無。	A	B			
3. 上記1で掲げた目標の中で、総合政策の研究・論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を習得するための授業科目を、適宜、配置する。	→総合政策の研究・論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を習得するための授業科目の配置の有無および履修者数。	A	A			
4. 上記1で掲げた目標の中で、リサーチ・プロジェクト(課題研究)を、本来の研究プロジェクトのもと、複数教員・複数院生が参加する形で行われるよう、授業科目としての履修および運営方法を再考する。	→リサーチ・プロジェクト(課題研究)の運営方法の変更の有無。	A	A			
5. 上記1で掲げた目標の中で、大学院の授業体系の中に新たに「災害復興コース」を設置する。また、2013年度より一級建築士の受験資格となるインターンシップの科目を設置する。	→「災害復興コース」の登録者数、および一級建築士インターンシップの登録者数。	B	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 学部4学科体制と連動し総合政策という本研究科の教育目標を実現するため、2010年度に研究科カリキュラムの大幅な見直しを行い、2011年度から新カリキュラムに移行した。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 大学院の授業科目体系に、英語修了コース、教職科目を配置するとともに、総合政策の研究・論文執筆に必要な基礎的方法論および理論を習得するための授業科目を配置した。またこれと連動して、科目名称の変更をおこなった。
その他	

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	学部4学科と連動した6領域に大学院授業科目の再編成・再体系化を行い、2011年度から実施した。
★小項目6.2.2	リサーチ・プロジェクト（課題研究）を選択科目とし、事前に教員からプロジェクトを募り開講する方式に変更した。これにより、本来の「研究プロジェクト」のもと複数教員・複数院生が参加する形で行われるよう運営形態が見直された。
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	科目ごとに授業内容、履修学生数および成績を各年度で調査し、必要に応じて授業内容の見直しを行う。
★小項目6.2.2	リサーチ・プロジェクトで扱われる政策課題の多様性を確保するとともに、2012年度中に一定程度の予算的な裏付けを与えることを検討する。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	「災害復興コース」は未設置であり、早急に設置する必要がある。また「一級建築士コース」の履修者は1名にとどまっている。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	東日本大震災において、本学部・研究科の多くの学生・教員が被災地で支援活動を展開している。この経験を「災害復興コース」の枠組み作りに反映させる。また、一級建築士の受験資格となるインターンシップの科目を2013年度に設置する予定であり、それに合わせて「一級建築士コース」の充実ならびに大学院受験生および大学院生への周知を徹底する。
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「目標」2の進捗評価は、昨年度のAから今年度はBになっていますが、特段の問題はないのでしょうか。「改善すべき事項」としての検討が望まれます。

【学内委員】

○進捗評価によると、2009年度に設定した目標はかなり達成されており評価できます。
 ○院生確保が全ての前提となります。総合政策学部には大学院を出ることでスキルアップができる学部だと考えています。学部の早い時期から大学院の魅力伝える必要があります。
 ○要素や大学基準協会の留意すべき事項を参考にされた記述が望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.2.2

★ 英語修了コース履修者の入学を促進するよう努力したい。また、一級建築士受験資格取得のためのインターンシップ制度は、2011年度から前倒しで実施しており、次年度以降も継続する。こうした実績を早い時期から学部生に周知することで、入学希望者の増大をはかる。災害復興コースについては、2012年度に枠組みを確定する。